



墮落狩り

開始条件: レベル5のドゥームストーカー

目的: 敵の全滅

序幕:

かつて故郷と呼んでいた村のことを、よく思い返す。そして傭兵を稼業として選んだことにも、たびたび罪悪感を憶える。自分の力や技能を、村を襲う脅威から守るために使っていない己を恥じ入る。

確かに村を守る者だったら他にもいた。選んだこの道も、同じくらい重要なものだ。それは理解している。それでも罪悪感に見舞われるのだ。だからこそ時間があれば、村に戻り、皆が無事かどうか確かめないではいられない。

そんな折、「村付近の森に二体の魔神が攻めこみ、獣たちを墮落させてしまった」という報告を斥候から受け、不安に駆られる。幾人もの狩人が「そんな獣など狩ってしまえ」と名乗り出たが、君は頑として聞きいれなかった。魔神どもと、それによってもたらされた墮落を、自分ひとりで一掃する。それこそ自分が村のためにできる務めなのだから。

特別ルール:

恐狼は《亡霊狼》です。各ラウンド開始時、《亡霊狼》に不可視



1



進んで行くと大地が揺れ、地面から土塊と岩石でできた魔神が現れた。「ふん、こんな小さなオーキッドが、我々を殺しにやってきただと?」声を発するたびに地面が揺れる。「狩人たったひとりで、相手に何ができる? ここで潰れるがいい!」

特別ルール:

この大地の魔神は《深き大地》です。そのHPIはH×2。HIは大地の魔神(上級)の通常のHPの値です。



2



次なる空き地まで進むと、容赦なき高熱による歓待を受けた。目の前に立ちふさがる業火の魔神は激しく燃え上がり、炎の先端は青く輝いていた。「狩人よ。我らはまさしく驚嘆すべき力を授けられた者だ」魔神はシュウト、熱風を吐きかけるように言った。「この侵攻、貴様ごときには止められぬ!」

特別ルール:

この業火の魔神は《猛き火焰》です。反撃 , その射程 , および装甲 , に、それぞれ+2します。



3



墮落を宿した獣たちを探しているうち、毒蛇の巢に足を踏み入れ、怒らせてしまった。じりじり迫ってくる毒蛇たちから、邪悪な獰猛さを感じた。この蛇たちも、墮落させられたのは明らかだ。倒さなくてはならない。

特別ルール:

すべての大鎖蛇の全攻撃に , +1。



終幕：

最後の野獣が倒れ伏す。と同時に墮落の臭いが消え、空気が変わるのを感じた。狩った獲物を無駄にしないためにも、麗しき衣とするために毛皮を剥ぎ、肉を村へと持ち帰った。人々は無言で感謝を述べ、おかげで一時的に罪悪感が和らいた。これで再び、傭兵稼業に戻る事ができる。

報酬：

アイテム 147 番〈狩人のマント〉

使用する
地形タイル:

D1b
C2a
G1a
A4a
F1b



恐狼



大地の
魔神



業火の
魔神



大鎖蛇



唾吐き
ドレーク



ねぐら
(×2)



切株
(×2)



丸太 (×2)



樹木 (×2)